

令和3年11月10日(水)

令和3年度 芸術鑑賞(古典)を実施しました。

落語と聞いて難しそうって感じていたようですが、実際に落語をきいてみると親しみやすさや面白さを感じたようです。曲芸も生で見えてハラハラドキドキさせられました。充実した会となりました。

春風亭 昇也(落語)・柳貴家 雪之介(大神楽曲芸)・桂 小文治(落語) ※プログラム順

様子・生徒感想



- ・落語と曲芸を初めて見て、とても面白いと感じました。鑑賞中は、ほとんど笑顔であったという間に時間が過ぎました。日本の伝統文化は皆が楽しいと感じるから受け継がれていくのだと知りました。
- ・印象に残っているのは春風亭昇也さんの小話です。短い落ちのある話をしてくださりとても面白かったです。

- ・道具を使った曲芸はとても迫力があり、それぞれの道具には縁起の良いもの(意味)が込められていて面白いなと思いました。
- ・包丁の上でお皿を回していてすごかったです。



ボールを投げるお手伝いをしました。



お茶をコップに注ぐお手伝いをしました。

- ・曲芸では包丁なども使っていてすごくヒヤヒヤしたけど、あの緊張感の中成功させるのはすごいと思いました。
- ・包丁やお皿など自分の身近にある危険だと思っている物を芸で表すことにより、いつもと違う視点で興味深く見ることができました。



・落語は一人で何人もの人を演じるので声のトーンや仕草、体の向きなどを細かく変えながらするのは大変だと感じました。石を投げる場面では、声で石を投げた距離を表現されていて本当に遠くへ石を投げているように思えたので不思議な感覚になりました。

・今回の芸術鑑賞を通して落語に興味をもったので、また鑑賞してみたいです。
・とても楽しかったし良い思い出になったので、また落語を見たいと思いました。



・最後のあいさつで、自分たちに向かってエールを送ってくださって嬉しかったです。
・「素直さを大切に」の話を自分の心にとどめていたいと思いました。



演者さんのサインが入った扇子・それぞれのサイン色紙・よせがきの色紙をいただきました。